

令和6年1月19日

報道機関 各位

災害対策本部設置訓練、津波対策訓練及び
避難所開設訓練等の実施について

平素は、本市の防災行政に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

泉南市は、これまでの大震災等の記憶を風化させることなく教訓とし、幹部職員の実践的な防災実務の習熟と防災意識向上を図るため、1月18日早朝、南海トラフ地震の発生及び同地震に伴う津波災害等を想定した災害対策本部設置訓練を実施しました。

また、1月17日の水防班による津波対策訓練（防潮施設操作訓練）と避難班による避難所開設訓練等を併せて実施しましたので、お知らせします。

【訓練内容】

○災害対策本部設置訓練

市長を本部長とする災害対策本部員14名により災害対策本部を設置、災害想定に基づき災害対策本部会議を開催し、各班での主な初動応急対応業務の実施状況の把握、被害状況の確認などを行った。災害対策本部員が参集指示を受けてから本部（市庁舎内）到着に要した時間は、最短18分であり、7時30分より集まった本部員で本部会議を開始した。

また、各部所管での防災対策上の課題について、本部員らがそれぞれの専門的な見識や日々の業務における経験に基づき、積極的な意見・情報交換を行い、市域の特徴を再確認することの重要性を認識した。

○津波対策訓練（防潮施設操作訓練）

水防班員が岡田漁港防潮施設や大里川ポンプ場の閉鎖操作を実施した。津波対策の指示を受けてから45分で水門・門扉等（訓練対象：13箇所）すべての閉鎖を完了した。

○避難所開設訓練

避難班員が避難所開設の指示を受けてから、訓練対象の指定避難所（泉南中学校）1箇所を開設した。指示を受けてから42分で避難所開設を完了した。

【訓練後の市長講評など】

訓練終了後、山本市長は、今後も様々な状況を想定した訓練を実施し、市民の生命及び財産を守るため、全職員一丸となり、あらゆる災害に対応できるよう組織体制の強化を図り、防災対策の推進に努め総合防災力の向上を目指していくと決意を述べた。

令和6年能登半島地震を受け、各部所管の防災上の課題の意見交換でできた課題について、計画の見直しを含めた対策を行うよう呼び掛けた。また、各所属長が被災して、登庁できない場合に備え、代理を明確化し、その代理者に対しても、その役割を把握しておくように指示をした。

《災害対策本部設置訓練の実施状況》

災害対策本部会議



【訓練時の災害想定】

令和6年1月18日午前7時00分、紀伊半島沖南海トラフを震源とするマグニチュード9.1の海溝型地震が発生した。近畿地方各地で激しい揺れを感じ、泉南市では震度6強を観測し、物的・人的に甚大な被害が発生した模様である。

鳴滝地区等で火災が発生し、山間部では、東信達地区で土砂崩れが発生している。ライフラインについても、電気・ガス・水道・電話が広い範囲で供給が停止している。

また、九州から関東地方の沿岸部に大津波警報が発表され、泉南市には地震発生後約75分で第一波が到達すると予測されている。